

園 評 価 の 結 果 に つ い て

学校法人 北邦学園

認定こども園桜台いちい幼稚園・保育園

令和6年度に実施した認定こども園桜台いちい幼稚園・保育園の自己評価の結果の概要は、次のとおりです。

建学の精神 「自然から学ぶ」

1 本園の教育保育目標

- ◎思いやりのある子
- ◎丈夫で明るい子
- ◎想像力の豊かな子
- ◎やる気のある子

【各学年のねらい(年間)】

年 齢	年 間 の ね ら い
0 歳 児	いろいろなものに興味をもち、保育教諭と一緒にのびのびと遊ぶことを楽しむ
1 歳 児	色々な遊びに興味をもち、保育教諭や友達と関わり、遊ぶことを楽しむ
2 歳 児	様々な遊びをする中で保育教諭や友達に自分から関わり、一緒に遊ぶ楽しさを感じる
3 歳 児	様々な遊びや活動に興味をもって取り組む中で、自分なりに気持ちを表現しながらいろいろな友達と関わり遊びを楽しむ
4 歳 児	いろいろな友達と一緒に様々な遊びや活動を楽しむ中で、気持ちや考えを伝え合いながら、目的に向かって意欲的に取り組む
5 歳 児	一人ひとりが様々な活動に見通しや目標をもって意欲的に取り組み、いろいろな友達と互いに気持ちや考えを認め合いながら自信をもって遊びや活動を進める

(A：成果が上かった。B：ある程度成果が上がった。C：もう少し努力が必要。D：改善が必要。)

自己評価	ねらいについての評価内容
「A」	・ねらいを意識し、達成に向けて保育内容の設定や援助ができた。各学年で年度当初にねらった姿に成長している姿が見られ、おおむね達成することが出来た。

2 重点的に取り組んだ目標・計画について

(A：成果が上かった。B：ある程度成果が上がった。C：もう少し努力が必要。D：改善が必要。)

課 題	具体的な取組み方法
1. 円滑な園運営	<p>◎昨年度の反省をふまえ、保育や行事運営の際に円滑な連携を取り、よりよい保育の提供を目指す。</p> <p>【行事や保育のねらいや意図の共通理解】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年度初めに作成している経営案に記載されているねらいについてみんなで見合い、意識統一をして行事の計画・準備・実施をする。 <p>【保育教諭間の連携の向上】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・管理職で仕事内容や園運営についての確認を定期的に行い、決定したことを明確化して職員が混乱せずに仕事に取り組める体制づくりを行う。
<p>【自己評価】</p> <p>「B」</p>	<p>《評価内容》</p> <p>【行事や保育のねらいや意図の共通理解】について [A]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・昨年度に比べ、行事前に担任や行事担当から事前に経営案を確認する声かけがなされることが増え、保育内容の計画や実施、評価・反省を行おうとする意識が高まっている姿が見られた。 ・共通で趣旨やねらい等を見合う機会はあるが、年数の若い先生については、理解して準備や援助などの進めるという面で難しく、戸惑う姿が見られた。 <p>【保育教諭間の連携の向上】について [B]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・意図やねらいを事前に確認し理解する機会を持てるようになったことで、先生方の連携への意識が高まり、昨年度より声を掛け合う姿が増えた。 ・管理職の全体の把握と声掛けが不十分だったり、指導の内容が異なったりすることで混乱を招き、連携がスムーズにいかないことがあった。 ・乳児部門、幼児部門の行事担当の先生方で時間を合わせる事が勤務形態上難しく、連携が取りにくいことがあった。

<p>2. 子どもの人権を意識した関わり</p>	<p>◎職員一人ひとりが、子どもたちの人権について考え、自分自身の関わり方を振り返り、安心して過ごせる保育の場を目指す。</p> <p>◎職員が心身ともに健康に過ごし、子どもと豊かな心で関わる環境づくりを行う。</p> <p>【保育の振り返りの機会を設ける】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・近年、不適切保育などを取り上げるニュースが散見されることをふまえ、職員一人ひとりが日頃の声掛けや援助について、子どもたちを尊重した声掛け援助になっているかを振り返る（令和5年に引き続き人権チェックリストを活用する。） ・子どもたちの成長にとってよりよいものになっているかを考えた計画や実践を行う。（特に、節分などの日本の伝統行事や季節ごとの行事についても、正しく由来を知り、安心して意欲的に楽しめる内容であるかを考慮する。） ・職員が子どもたちの成長や姿について、気づいたことを伝え合い、自分たちのクラスだけでなく、園全体で子どもたちを見守る環境を目指す。 <p>【職員が心身ともに健康に過ごし、保育に意欲をもって取り組める環境作り】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちへ愛情を注ぎ、温かく子どもと接している職員たちが心身ともに健康で余裕をもって保育に取り組めるシフトの組み方、人員配置、仕事内容について、管理職を始めとして話し合いの場を設け、改善に努める。 ・仕事内容を見直し、勤務時間等の改善に取り組む。職員一人ひとりが自分の仕事の進め方について見直し、無駄のない仕事の進め方を考えて取り組む意識をもち、業務の時間短縮に努める。
<p>【自己評価】</p> <p>「B」</p>	<p>《評価内容》</p> <p>【保育の振り返りの機会を設ける】について [A]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人権チェックリストを用いて自分の保育を振る機会を作ったことで、改めて子どもとのかかわり方について考え、反省点や評価点などを自分なりに意識し保育に活かす姿がみられた。 ・気になるニュースなどを耳にした際は、先生同士で情報を周知したり、申し送りの会で伝えたりすることで、子どもの人権を守る意識をもちながら関わる姿がみられた。定期的な振り返りや気づきの共有などは今後も継続して行っていくべきだと考える。 ・節分などについては、由来を適切に子どもに伝わるような内容で行うことが出来た。 ・子どもの姿については、クラスに関わらず、子どもの成長を園全体で見守っていく意識を持って関わっていた。保護者からも園全体で子どもを見守ってくれる雰囲気を感じるとの声聞くことが出来たことはよかった。 <p>【職員が心身ともに健康に過ごし、保育に意欲をもって取り組める環境作り】について [B]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・仕事の内容の整理や見直しをしたことにより、円滑に進むことが増えると、子どもの「やってみよう」という気持ちに寄り添って保育に取り組めたという職員からの声があった。 ・業務内容や進め方については、書類作成の煩雑さや連携の取りづらさによって、時間がかかることがあった。書類や手紙の作成の行い方や、連携の取りやすいシフトの組み方などについて引き続き改善に向けての取り組みをしていく必要があると考える。

<p>3. 保護者理解と連携の強化</p>	<p>◎保護者が安心して子どもを預けられるよう、連携システムのミスの軽減に努める。</p> <p>◎保護者が子どもの様子をつぶさに知ることが出来るようにする。</p> <p>【手紙などの内容・発行時期について、分かりやすく適切な発行をする。】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・手紙などの配信や登降園時間の管理などを、オンラインシステムで行っているが、活用できていないことにより、不便さを感じることもある。再度使い方を検討し、利用方法を考慮することで、保護者との連携ミスの減少や情報交換の円滑化に努める。 ・定期的なアンケートで保護者の声を聞き、園と保護者のコミュニケーションの機会とする。 <p>【保護者との綿密な情報共有】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日頃から子どもの様子や気になる姿なども保護者の方へ伝えておくことで、安心感を持てるようにする。 ・子どもたちが園の保育の中で、のびのびと遊び、楽しそうに過ごす姿を発信することで、来園する機会が少ない保護者の方にも、園の様子が伝わるように取り組む。 ・園の教育理念や行事や保育の意図を発信していくことで、園の保育への保護者理解を深めるとともに、園見学などにも保護者の方が気軽に来れるような環境作りを行う。
<p>【自己評価】</p> <p>「B」</p>	<p>《評価内容》</p> <p>【手紙などの内容・発行時期について、分かりやすく適切な発行をする】について [B]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・オンラインシステムでお知らせを配信することで、全体への素早い周知が出来た。 ・手紙発行において、昨年度の反省をふまえ、月の予定表を早めに発行するなど、時期を見直し、改善したものがあつたことはよかった。 ・準備物などのある場合のお知らせについてももう少し早めの発行時期にしてほしい、行事の手紙がいくつかに分かれて配信されると、どれを見ていいかわからないとの声があつた。 ・アンケートについては、気軽に答えられるような内容や、園運営にその都度活かしていける内容をもう少し考慮して取っていただけるとよかったと感じた。 ・数多くのお知らせが配信されることで、重要な手紙の内容などが埋もれてしまい、確認したい情報が見つけられず困ることがあるという声が聞かれた。時期を過ぎたお知らせを整理したり、カテゴリを分けたりなどの工夫が必要だった。 <p>【保護者との綿密な情報共有】について[B]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コドモンなどのオンラインシステムを利用することで利便性が高まった反面、年度末アンケートでは、電話やお迎え時にもっと子どもの成長や様子を聞きたかつたとの声があつた。一人ひとりの成長を保護者と共有するという点において、クラスによっては課題が残つた。 ・クラスの担任や補助の先生以外も、子どもの姿や成長を伝えてくれることがあり、嬉しいとの声が聞かれた。 ・連絡帳やブログで写真付きで子どもの様子を配信してくれることで、クラス活動の様子を知る機会になったという声があり、実施の効果を感じることができた。 ・保育の意図を伝える機会や見学の周知については、もう少し広く行うべきだった。気軽に来れる体制作りまでには今一歩届かなかつたため、改善していきたい。

4 今後取り組むべき課題

課 題	課題設定の理由
① 子どもたちがのびのびと遊べる環境作り	<p>①【子どもたちの成長や発達を理解】</p> <p>⇒教育保育課程などに照らし合わせながら、子ども一人ひとりの成長を見取り興味や発達に寄り添いながら援助を行う。</p> <p>②【園環境の安全についての意識を高める】</p> <p>⇒年度初めに、環境や遊具の点検の方法や、予想される危険について考え、安全の視点について共通理解をする場を設け、事前の安全点検や環境整備、援助の際に意識できるようにする。</p> <p>⇒毎日職員で行っている申し送りの会で、ヒヤリハットを共有する。些細なことでも伝え合う意識を持てるよう取り組む。</p> <p>③【園環境を活かした遊びの充実を目指す】</p> <p>⇒園庭の『かぜのふねシルフィ号』『こもれびのいえ』『ゆめこうぼう』、2F 遊戯室の『デン』『えほんのもり』など魅力的な環境を存分に生かし、子どもの遊びを充実させる。</p> <p>⇒職員がそれぞれの遊具の魅力を考え、安全かつのびのびと遊べる方法を考え、遊びのアイデアを職員間でも共有し、一緒に楽しむことで、子どもたちの遊びの意欲や興味のきっかけづくりをする。</p> <p>⇒子どもの遊びやアイデアに寄り添いながら、教材や環境を準備することで、子どもの主体的な遊びが継続して楽しめるようにする。</p>
② 保護者が安心できる園づくり	<p>①【園と保護者の相互理解を深める】</p> <p>⇒クラスのブログや乳児の連絡帳の配信を継続して行い、来園する機会が少ない保護者にも、子どもの生き生きとした園での様子や、その時期の成長・保育の趣旨やねらいなどが伝わるように内容を工夫する。</p> <p>⇒電話やお迎え時の会話などでコミュニケーションをとり、園や家庭での子どもの姿を共有し、成長を喜んだり悩みに寄り添ったりすることで安心感を持てるようにする。また、職員一人ひとりが意識して、挨拶や気持ちの良い声掛けを意識し、保護者の方とのコミュニケーションが取りやすい雰囲気づくりに努める。</p> <p>⇒マザーズデー・ファザーズデーの開催や、日頃の保育見学が可能であることをより広く周知し、園での様子を知る機会を増やすことで、園と保護者の保育や子どもの姿などの相互理解を深める。</p>

	<p>② 【わかりやすい情報配信の工夫】</p> <p>⇒今年課題であった準備物の多い行事の手紙の発行時期や、運動会や生活発表会など、お知らせが多くなる行事については、情報をまとめて確認できるよう工夫する。</p> <p>⇒知りたい情報が埋もれて振り返りにくいという点では、必要な時期を過ぎたお知らせを削除する、カテゴリ分けをするなど、よりよい方法を模索していく。</p>
<p>③ 安定的な園運営</p>	<p>① 【職員間の円滑な情報共有】</p> <p>⇒管理職が行事の運営の際には、趣旨やねらいについて共通理解をした上で、一貫した情報の周知や指導ができるようにし、職員が円滑に保育や業務を行えるようにする。</p> <p>⇒年数の若い先生たちについては、管理職や先輩の先生と一緒に進めながら指導し、理解を深めていけるようサポートをしていく。</p> <p>⇒経営案『いちいの保育』を確認する習慣をつける。全員が同じものを見て情報共有を行い、スムーズな連携が行われるようにする。 (全職員がいつでも確認することが出来るようクラウドシステムなどを利用し、掲載する)</p> <p>* 例年、様々な手紙や行事の流れなどが多岐にわたり配布されることが原因で、情報が混乱し手間が増えることが多かったため、情報共有に使用するものを統一する</p> <p>② 【保育教諭の連携の向上】</p> <p>⇒日頃から職員同士の円滑なコミュニケーションを心掛け、子どもの姿や業務の進捗や保育のアイデアなどを共有しやすい環境づくりを行う。</p> <p>⇒乳児部門・幼児部門の保育時間などを考慮し、打ち合わせや作業が進めやすいような業務分担をし、円滑な連携がなされるようにする。</p> <p>⇒管理職や行事担当は、振り分けた業務が円滑に行われるよう、全体への周知や事前の声掛け、途中経過の確認をする意識をもつ。</p> <p>③ 【職員の定着率の向上】</p> <p>⇒業務改善に努め、業務の内容や時間の削減に努力し、長く働きやすい職場環境にすることで、定着率の向上を目指す。先生方一人ひとりが心身ともに健康で働きやすい環境になる人員の充足を目指していく。</p>